救いに至る悔い改め

信仰は、イエスによる救いを受け取る私たちの手にたとえられるように、悔い改めは、死んだ行ないを拒否する手にたとえられるかもしれません。

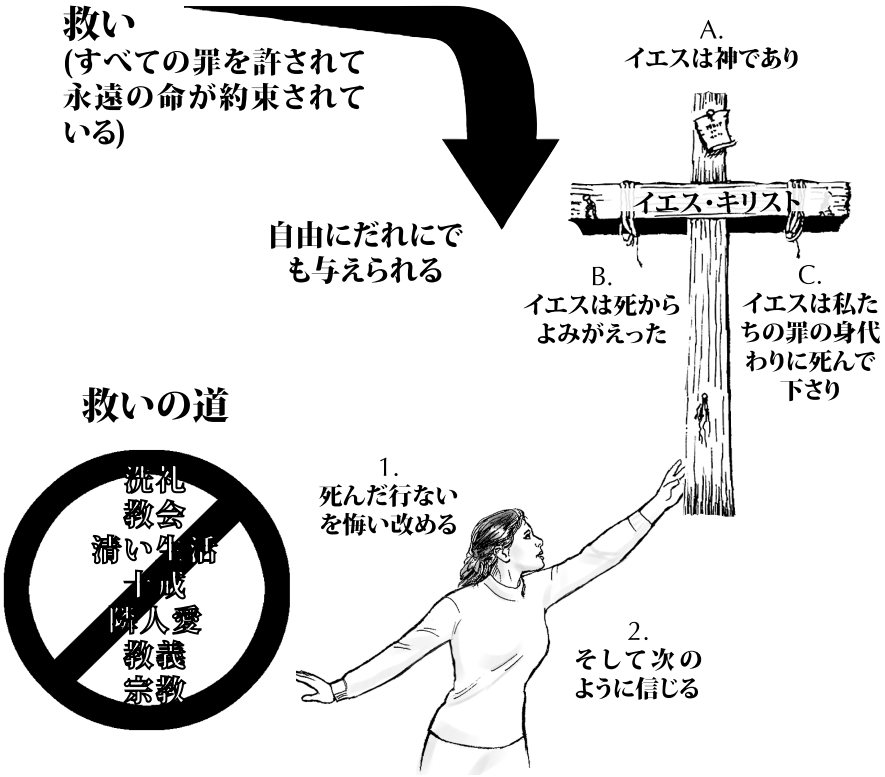
救いに至る信仰は、単にイエスの死が必要であるだけではなく、完全無欠であることを認識します。イエスの死は、人間の努力や良い行ないとは全く関係なしに、私たちのすべての罪を清算しました。それは人間の努力や良い行ないによってではなく信仰によってのみ自由に与えられるものなのです(ガラテヤ人2:21、3:10—14、5:1—5)。

この小冊子の3ページの質問にもどってみましょう。神が天国に入れてあげるけど、どうしてだと思いますかと質問された時、なんと答えますか。もし洗礼を受けたからとか、清く正しい生活をしているからとか、その他イエスを信じること以外のどの答をしても、その人は悔い改めなければなりません。私たちは過去、現在、未来のどの時点においても宗教じみたことに頼るのをやめなければなりません。そしてただイエスにのみ頼って行こうではありませんか。

要約すると：

私たちの罪は、人と神とを完全に断絶させる原因となりました。しかし神の子、イエスは十字架上で私たちすべての罪をご自身に受けて下さいました。それゆえ私たちは、イエスによって神に近づくことが許されました。

> 「イエスは彼に言われた。『わたしは道であり、真理であり、命なのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに行くことはできません。』」
> (ヨハネ伝14章6節)



いままでに天国に行くには、なにか良い行ないをする基準に少なからずかなうとか、宗教的な規律とかを最小限守る必要があるとか思ったことがありますか。

そして、まだそのように思っていますか。

イエスが十字架上で成して下さったことを理解できますか。今それを自分の言葉で説明できますか。

いままで、このように正しく説明を受けたことがありますか。

さあ、次のように自問してみて下さい。「イエスは自分のために十字架に掛かり、すべての罪を清算し、天国への道を開いて下さったことを信じているだろうか?」

❑ はい　❑ いいえ